

59の経営学関連学会が参加する経営関連学会協議会(東京・世田谷、野々山隆幸理事長)が経営学の研究者に聞いた日本企業の経営に関するアンケート調査によると、約4割がグローバル化を課題としてあげた。具体的にどの国・地域で事業拡大を目指すべきかとの問いにはトップがインドで、以下ベトナム、インドネシアと続いた。

調査は9月上旬～10月上旬にインターネットで実施し、各学会に所属する31

## 「グローバル化課題」4割

### 日本企業の経営、研究者アンケート

3人から回答を得た。経営課題(複数回答)で上位だったのはグローバル化(40・3%)のほか「人材の強化」(34・2%)「新製品・新サービス・新事業開発」(25・9%)だった。日本能率協会(東京・港)が経営者を対象に昨年実施した同様の調査では「収益性の向上」「売り上げ・シェア拡大」が上位でグローバル化は13・3%にとどまった。

## 有望開拓先、インド首位

事業拡大を目指すべき国・地域を昨年、日本貿易振興機構が日本企業に聞いたところ、中国、タイ、インドネシアの順で、こちらも研究者とは差が表れた。同協議会は「研究者が『あるべき姿』を意識し、企業人は現実的な課題を強く意識している」とみている。

アンケートでは日本企業の強みとして7割が「技術力や製造力の卓越性」を上げた。

(湯沢維久)